文部科学省「令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」ともにいるだけで学びになる わくわくワークブック

発行 2024年3月

発行者 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ 編集 石幡愛、内田翔太郎、ササキユーイチ

取材協力 浜松市

デザイン 安達彩夏(design hotori)

お問合せ先 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

〒430-0939 静岡県浜松市中区連尺町314-30 たけし文化センター連尺町

電話 053-451-1355

メール lets-arsnova@nifty.com ホームページ http://cslets.net/







文部科学省「令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

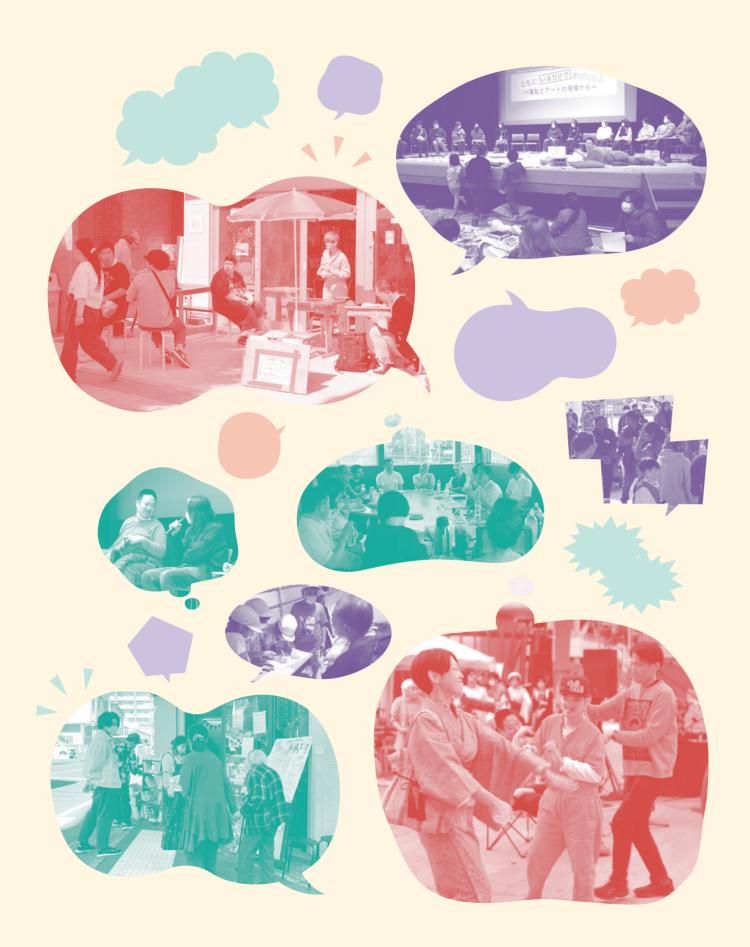
1ともにいるだけで/

TO TO TO THE PARTY OF THE PARTY





認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ



はじめに

わたしたちクリエイティブサポートレッツ(以下、レッツ)は、障害や国籍、性差、年齢などあらゆる違いを乗り越えて、様々な人が共に生きる社会を、アートや文化を通して実現することを目指すNPO法人です。2000年から静岡県浜松市で活動しています。

このワークブックは、重度知的障害のある人を核に多様な人同士が出会う場をつくってきたレッツの実践を紹介することを通して、どうやったらいろんな人たちがともにいて学びになる場、わくわくする場になるのかを、みなさんと一緒に話し合ったり考えたりしていくきっかけになるようにつくりました。特に文化施設や公共施設などの人が集い学びつながる場所に関わる方々に、ぜひ手にとっていただきたいと思っています。

本書は3つのセクションに分かれています。 それぞれのセクションごとのテーマに沿ってレッツのこれまでの実践例を紹介しています。それらの実践例からともにいるために大切なことをポイントとしてまとめました。さらに各セクションの最後には、これからの学びの場について考えたり、発想を広げるためのワークがあります。ぜひ、自身の問いを深めながらもやもやと、あるいは一緒に考えたい仲間を募ってわいわいと、ワークに取り組んでみてもらえたらうれしいです。また、セクションの合間では、2023年にレッツが取材した静岡県浜松市内にある協働センター*で行われている様々な取り組みの一端を、コラムとして紹介しています。

個人が何かを習得して能力を高めていくこ

とだけが〈学び〉ではありません。意図しない出会いに驚いてわくわくしたり、ときには揺さぶられてもやもやしたりすること。本書では、生きるなかで誰もが持ちえる〈学び〉のそういった側面に光を当てたいと思っています

いざ、ともにいるだけで学びになる世界へ!

*協働センター … コミュニティ活動を通じた活力 ある地域づくり及び生涯学習の推進を図るため に設置された浜松市の施設。2013年、浜松市内 の公民館に地域づくりの拠点機能が付加され、協働センター、ふれあいセンターに再編された。

目次

はじめに … 1

セクション1ともにいるのがむずかしい場だったら

実践例① たけし文化センターBUNSENDO ··· 2

実践例② 共生社会コンファレンス2022 [ともにいるだけで学びになる] … 3

わくわくワーク ともにいるロビーの妄想プランをつくる! … 4

コラム 野嶋京登さん(浜松市富塚協働センター コミュニティ担当職員)・佐藤拓男さん(浜松市北部協働センター 所長) … 5

セクション2 もやもやしたり、異なることでぶつかったら

実践例③ かたりのヴぁ… 6

実践例④ しえんかいぎ … 7

わくわくワーク 哲学対話をやってみよう! …8

コラム 髙橋久美子さん(浜松市浜松手をつなぐ育成会)×大平智史さん(浜松市曳馬協働センター コミュニティ担当職員) … 9

セクション3 混ざるとうまれるあれやこれ

実践例⑤ ちまた公民館…10

実践例⑥ みにみにアルス・ノヴァ…11

わくわくワーク 居心地のよさってなんだろう?…12

SECTION 03

0

A SECTION 01 /



ともにいるのがむずかしい場だったら… 🔉

まいます。環境や仕組みを変えたり、あたらしいコンセプトを生み出すことで、ともにいることを実践した事例を紹介します。



たけし文化センターBUNSENDO

浜松市の中心市街地の元書店を活用して期間限定でオープンしたスペース。そこは重度知的障害のある「く ぼたたけし」という個人を全肯定することを第一義に設けられました。子ども連れの家族、高校生、ひきこもり がちの大学生、アーティストなどが来場し、それぞれのやりたいことが同時多発的に行われ、約200の小さなイ ベントが生まれました。





久保田 翠

レッツ理事長。久保田 壮の母。社会の排除 不公平への怒りから 価値観を覆すレッツ の活動を開始。

障害のある〈個人〉を全肯定する〈公共〉空間

けてきたんです。でも、たけし文間を考えてくれました。 化センターBUNSENDOでは、そ れを問題行動だとせずに彼を排 でした。

ていて、その方針を象徴するよう なものが置かれていました。手の

込んだり、静かにしていなきゃいでも動かせる家具、破ってもいい何か起きてから考えればいい。 けない場で大声を出したりするポスターなど、たけしを全肯定し ので、公共の場では排除され続 たうえで、他の人と共存できる空 て思えるかどうかだと思います。

実は、カフェスペースは設営の時 そんなコンセプトづくりと場の設 がお茶をスッと持ち上げればい 思います。 えはふたりのアーティストが担っいわけじゃないですか。汚された ら拭けばいいんだし。空間の問 題ではなくて、そこにいる人の対 届かない高さのカウンターと審応の問題なんです。事故が起き 判台のハイチェアを使ったカフェ たらどうするとか起きてもいない

たけしはお茶があると手を突っ、スペース、キャスター付きでいつ、ことを怖がってやめがちですが、 「誰が来てもいい」と確信を持っ

結局、ザワザワしていて、たけし はそれほど居られなかったんで 除しないと決めたことが画期的 点でたけしに攻略されたんです。 すけど、でも、彼がリスペクトされ でも、お茶をめがけてたけしがている光景は確実に伝わって、 突っ込んできたら、飲んでいる人 マジョリティの意識を変えたと





このセクションでは、あなたの関わる場が誰かを排除するものになっていたらどうしたらよいのかを考えます。使う人の特性に合 わせて場所を分けたら解決するのでしょうか? しかし、それではいろいろな人同士が出会う場面が社会の中からなくなってし

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究 | 事業報告としてコンファレンスを開催。障害のある 人、支援者、外から遊びに来る人や街で出会う人たちが、ともに生活や活動をつくっているレッツの事例をもとに、常識に囚われ ず、感性をひらき、互いに折り合いをつけていくアート的な発想について対話しました。声が出たり、体が動いたりする方も参加でき る会場をつくり、コンファレンスそのものが「ともにいるだけで学びになる」というテーマを体感できる場になりました。

ともにいる空間は、ともにつくられるもの

ホールだったのですが、前を向い加してもらったら、子どもたちと紙 て座って聞くというふうに居方を 限定する空間でした。そうなると、 マッチしない人が居づらいし、他 の人も特定の居方を想定してし 方がステージ上でうろうろしはじ まって枠から外れる居方に対してめて、それを見て子どもたちもス 「良くない」と見てしまう。なので、テージに上がってきたり。 外せる椅子は全部外してカーペッ トを敷いておもちゃを置きました。
きっかけは登壇者のお一人に「子
逆に、そういう設えにすると「集中 ホールにはいられないけれど話 は聞きたい方も想定して、楽屋を 一般開放してモニター越しに聞け るようにもしました。

子どもの面倒を見るのが好きな ることは大切だと思います。当事 思います。

会場はステージと客席がある 中学生にベビーシッターとして参 飛行機を飛ばしまくってくれてよ かったです。登壇者全員で対話す る場面では、重度知的障害のある

> われたことでした。ちょうど広報を ならちゃんとチラシにも書いたほ

者が子連れでも行ける場なんだと 思えるようにというのもあるけれ ど、他の参加者もそういう場なん だと分かる。当事者が工夫するだ けじゃなくて、周りも工夫しましょ うってことですね。例えば、子ども の声で話が聞きづらいなら、聞き やすい席に移動しましょうとか。

どもを連れて行ってもいい? |と言できなかった |という戸惑いの感 想をいただくこともありますが、 出すタイミングだったので、それ 空間自体がどうかということより も、そうしてニーズを言い合える うがいいなと思って。アナウンスす 環境になっていることが大事だと



高林 洋臣

障害福祉施設アルス・ ノヴァの支援員。わか りあわないままとも にいる日々に豊かさ を感じている。





SECTION ()1 ともにいるのがむずかしい場だったら…

& POINT "

- ☑障害は個人と環境や社会との「あいだ」にあるもの 環境や対応の仕方が変わると、困りごとが困りごとではなくなる。
- ☑ 積極的に多様な人を歓迎することをアナウンスする 当事者にとっても、周りの人にとっても、意識するきっかけになる。

√場をともにする人同士が調整しあえる環境

異なる人が出会ってやりとりをすることから創造的なアイデアは生まれる。



ともにいる「ロビー」の妄想プランをつくる!

公共施設のロビーを、もっといろんな人が過ごしやすい場所に大改造。 そこにはどんなものや、どんなルールがあったらいいのでしょうか?イラストも交えて、妄想設計図を描いてみましょう。

DJブースのある ロビーはどうかな。 踊れるロビーだったら、 ちっちゃな違和感は どうでも よくなるかも。

にぎやかなのが 苦手な人もいるよね。 でも、静かじゃないと いられない場所 ばかりなのって どうして?



コラム

地域コミュニティの原点は楽しい時間を共有すること

浜松市の閑静な住宅街にある 富塚協働センター。地域の住民 と富塚協働センターが行ってい る「あおぞら協働センター」につ いて、同センターのコミュニティ 担当職員・社会教育士の野嶋京 登さんにお話を聞きました。



─ 「あおぞら協働センター」ってどんなもの?

「あおぞら協働センター」は移動式屋台型の公民館です。私が研修として沖縄県那覇市の若狭 公民館による「パーラー公民館」の取り組みを見に行ったことがきっかけで、地域のみなさんと 浜松でもやってみようと、2019年から始めました。富塚協働センターの近くにある佐鳴湖公園 の広場に大きなパラソルを立てて、アーティストによるワークショップをやったり、集まった人で お喋りをしたりします。6月から12月頃までほぼ毎週末実施していますよ。事業は別に建物や場 所にこだわらなくてもいいんです。大切なのは、人が集まると何かが起こるということ。偶然出 会った人がここでマジックやよさこいを披露してくれたことがあったり、出会った人同士が友人 になって新しい活動が生まれたりと、いろんなことが起こっています。

*コミュニティ担当職員 … 住民自治の充実や市民協働の推進、地域づくりのために浜松市内の協働センターな どに配置された職員。地域活動の相談やアドバイス、地域課題解決事業の実施などを行っている。 *パーラー 公民館 … 里板テーブルにパラソルを立てた移動式公民館 生活圏に公民館や図書館のない地域からの相談を 受け、2017年に那覇市若狭公民館(NPO法人地域サポートわかさ)が始めた。現在は運営が地域団体に引き継 がれて開館している。

一ともにいる場や時間をつくるために 大切なことは?

協働センターは本来どんな人にも開かれたインクルーシ ブな場所です。地域には多様な人がいて、それぞれ異な る得意不得意や地域活動に対する温度感を持っていま す。私の仕事は地域の方の顔と名前を覚えて信頼関係 を築きながら色々な人同士を繋げていくことです。「あ おぞら協働センター」の他にも地域の声をかたちにして たくさんの取り組みを行っていますが、いずれも一人の 力だけでは何もできません。支え合いがあってこそ可能 性は広がります。地域コミュニティの原点は楽しい時間 を共有すること。誰かのためはもちろん、自分自身も楽 しむこと、誰もがWin-Winの関係が大切だと思います。

Profile 野嶋 京登

化粧品会社の営業マンから、地元浜松でまちづくりに携わ りたいためにUターン、2014年に浜松市職員に転身。2018 年富塚協働センターに着任後、地域住民と「あおぞら協働 センター |実施、一人のごみ拾いボランティアの声から発展 した「ごみゼロフェスタ | 開催、学生が活躍しやすいボラン ティア制度「コミュニティ・アシスタント」確立、若者たちと 「アオハル音楽祭 | 開催などを行う。公民館・浜松市職員とし て「地方公務員アワード2023」初受賞。

地域をつなぐ場としての協働センター

北部協働センターは住宅街や 工業地帯、航空自衛隊基地な ど、多様な地域性のある萩丘地 区に位置しています。息の長い 地域づくりの活動を支援してき た同センターの取り組みについ て、所長の佐藤拓男さんにお聞 きしました。



─「北部ジュニア公民館」の取り組みについて教えてください。

北部ジュニア公民館は中学生ボランティアが企画運営してお化け屋敷や食品販売などで地 域の子どもたちをもてなすイベントです。2001年に三澤純子さんという方がキーマンになり 始めました。例年夏のイベント本番に向けて5月頃から毎月準備を進めていきます。企画決定 から当日運営、最後の振り返りまで主体になるのはあくまで地域の中学生ボランティアです。 それを活動のOBOGや北部生涯学習ボランティアの会のみなさんといった地域の大人たち がサポートしているんです。地域と学校と行政が協力してつくる、子どもたちの安心な居場所 になっています。地域の一員という自覚を持てたり、異世代・異文化交流の学びの場所もあ り、学校には行かないけれどジュニア公民館には参加して活躍するという子どももこれまで にたくさんいました。イベントに遊びに来て楽しい経験をした子どもがその後運営の担い手 になるという循環が生まれています。地域活動をリードする存在が世代交代をして引き継が れているんです。

— 地域をつなぐ"Connecting People!"が 合言葉と伺いました。

協働センターは、人が集いつながる場所でありたいと 思っています。人が集うと情報も集まります。気楽に立ち 寄れて雑談ができることで新しいアイデアも生まれてき ます。2023年の北部協働センターまつりではセンターの 創立50周年を記念して「ほくぶのどじまん」を開催しまし た。ここで活動する同好会の方々、中学生、外国にルー ツのある方、学校支援コーディネーターの方、地域のお 年寄りや視覚障害のある方にも出演していただきまし た。北部協働センターで日々活動しているみなさんが歌 を通じてともにいるという場ができました。

Profile 佐藤 拓男

1975年浜松市生まれ。1995年浜松市役所入庁。ト下水道・ 教育・道路管理・福祉行政に従事。2018年4月より北部 協働センター所長。同センターのキャッチフレーズは 「Connecting People!~笑顔でつなぐ地域の輪~」。特色 ある事業として、23年続く地域・学校・行政が一体となり地 域の中学生が企画・運営する「北部ジュニア公民館」。延べ 3.500人のボランティアを輩出している。



もやもやしたり、異なることでぶつかったら… 😮

様々な違いを持った人たちがともにいる場では、もやもやと葛藤が生じたり、ときにはぶつかり傷つけ合うこともあります。そんな ときに話し合うということは、互いに歩み寄り固定された見方や関係を解きほぐす糸口になるかもしれません。このセクションで は、自分と他人の違いを大切にしたり楽しむことができる、そんな対話や話し合いの実践を紹介します。



かたりのヴぁ

「哲学対話 | のレッツ版。生活の中のふとした疑問、当たり前すぎて普段見過ごしてしまうような事柄から テーマを決めて、参加者が対話を通してそれぞれの考えを深めていきます。ルールは3つ。「1.他の人の話を 最後まで聞く。2.体験をもとに自分の言葉で話す。3.聞いているだけでもOK。| 話すよりも聞くこと、場を ともにすることを大切に実施しています。



違いやズレを楽しむ対話の場



Navigator 尾張 美途

障害福祉施設アルス・ ノヴァの支援員。マニ アックな感性で生み だす摩訶不思議な游 びに気づけば誰もが 話したときのことです。「うんうん、そのとき、居場所はよいものという前 うだよね」という共感的な雰囲気で 中盤に差しかかった頃、「そわそ わ」ってどういう状態なのか、からだ でやってみようということになった んです。そしたら、みんな違った。ト イレに行きたくてもぞもぞしている 人とか、かばんの中の失くし物を探 す仕草をしている人とか。同じテー マで話していても、実は頭の中に あったのはそれぞれ違ったのかも しれないというのが印象的な場面 でした。

真逆の意見が出てくるのもよいと思 こう考えるけれど、あなたはこう考 ている感じがしました。

提で話が進んでいたんですが、「私 は居場所なんていらないと思う」と いう話が出てきたんです。進行役と してはそういう場面って実はうれし い。話してきたことが別の局面に行 けるわけじゃないですか。正解に至 る道が一本しか用意されていない しています。他の参加者も話を聞き のはおもしろくないですからね。

考えの違う人同士が喧嘩になりそ うになることもあります。人には価 値観が違う相手に「それは違う」と

「そわそわの理由」というテーマでいます。「私の居場所」というテーマえるんだね」と、違いやズレをその まま受け止めるやり方もあると思い

> かたりのヴぁは障害のある方も場 をともにします。彼らは発言すると いうかたちで対話に混ざらなくて も、そこにいるというかたちで参加 ながら彼らの存在を気にしているん です。あるとき、話がまとまりかけて 参加者もこれでいいのか首を傾げ ていたら、たけしくんが飴をバーン とぶちまけたことがあって、「小さく 主張してしまう癖がある。でも「私は まとまってるんじゃないよ」と言われ







しえんかいぎ

「支援会議」とは、福祉サービスの利用者のニーズにそって支援の方向性や内容を検討するために開か れる関係者会議のこと。通常は利用者本人と関わりのある人たちが集まって話し合います。レッツでは、と きに一般参加者にも開かれたかたちで、支援の現場から出てきた悩みや違和感を解きほぐす対話の場を 「しえんかいぎ」と呼んで開催しています。

〈問題〉を開いて解きほぐす

特定の物事にこだわりの強いある に身動きが取れなくなっているん 特定の誰かに関する話は、その方 人が、何かの拍子にどうしても動 かなくなってしまうことがあって んですね。逆に"かたまった"状態 困っていたときに、そのことを「し えんかいぎ | の話題として話したこ とがありました。「誰々さんが"かた か「ドラムをやってみよう」みたい まる"んですよ…」と話したら、外部 の方に「その"かたまる"って、なん ですか?」と聞き返されました。そ いたんです。 のとき、僕はそれを自分の言葉で 言い換えることができなかった。

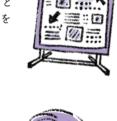
その個人がかたまっているんじゃ



じゃないかという気づきがあった が"ほぐれる"のは、「じゃあ、ここで 炭酸ジュースのゲップ大会か | と に、彼と僕とが互いに新しい関わ

た言葉の意味が、対話を通してまっ合っていくのかという話になりま でも、みんなで話していくうちに、たく違うものに変わる経験でした。 誰か個人に問題があるように見え てしまっているときって、自分が 詰まって、お互いなんだと思います。

を知らない人にとっては興味を持 ちようがないことかもしれないと 最初は心配していました。でも、僕 らが日々直面している問題は、簡 単には解決策が見つからないも のや、問題の設定自体を解きほぐ り方を発見したときだったと気づす必要があることが多いので、目 先の対応策を決める話し合いで はなくて、どうしようもないことだ これは、自分がそれまで使っていと腹をくくって、どうやって付き す。それは、つまり「私たちはどう やって生きていけばいいんだろ う」という話でもあって、誰とでも 一緒に考えることができると感じ ています。





ササキ ユーイチ

ヘルパー事業所アル ス・ノヴァULTRAのス タッフ。まちで暮らす 障害のある人ととも に日々のセッションを 楽しむ。





» POINT

☑話し合うことでお互いの違いを味わうことができる

違いやズレがあることはその集まりの豊かさでもある

☑ 対話によって [問題] の見え方が変わる

解決を目指すのではなく互いを知ることで問題のあり方が変わる

☑話すよりも聞くこと・場をともにすることを大切に

対話への参加のかたちは言葉を話すことだけではない



哲学対話 |をやってみよう!

あなたのいる場で実際に哲学対話をやってみましょう。 「哲学対話」のやり方は色々なアレンジができますが、ここでは「かたりのヴぁ」のやり方に則ってやってみましょう。

①話したいテーマを決める。



これまでの「かたりのヴぁ」のテーマは こちらのウェブサイトをご覧ください。 https://note.com/katarinova/



- ②時間と場所を決めて、人を集める。
- ③当日は進行役を決めて話し合う。

ルールは、

- 1. 他の人の話を最後まで聞く。
- 2. 体験をもとに自分の言葉で話す。
- 3. 聞いているだけでもOK。
- 4時間になったらおしまい。 もやもやが深まったり、 新たな疑問が生まれたら大成功!





とっても個人的なことが 意外とみんなの 自分ごとだったり… でも秘密にしておきたい こともあるよ。



コラム

「学習成果活用事業」で 学びとつながりの機会をつくる

浜松市に住む髙橋久美子さんは市内の協働センターなどが窓口とな る「学習成果活用事業」として障害のある人のことを伝える講座を開催 しました。髙橋さんと講座の企画運営をサポートした曳馬協働センター のコミュニティ担当職員・大平智史さんのお二人にお話を聞きました。

一どんな経緯で講座を開催することになったのでしょうか。

髙橋 久美子 私の長女はいま30代で重度の知的障害と自閉症があ ります。彼女は数年前から親元を離れて市内でヘルパーの支援を利用 しながら自立生活をしているのですが、それまでは家族と同居して暮ら していました。地域で娘がいろんなトラブルをまき起こすので、もっと障 害のある人のことを伝えていく必要があると感じて、障害のある人の 家族の会である「浜松手をつなぐ育成会」として2009年から啓発活動 を始めました。「浜松キャラバン隊 |という啓発隊として、障害のある人 の特性や関わり方の工夫を寸劇や朗読、疑似体験のワークショップな ども交えて伝える公演活動をしています。

2020年に障害のある人の親の立場から静岡県の社会教育委員会に 参加する機会をいただきました。調べていくうちに、障害のある人は学 校卒業後に学びの機会が少ないことや、地域の協働センターなどで行 われている生涯学習にほとんど参加できていない現状を知りました。 そんな折に、たまたま回覧板で「学習成果活用事業 | を知って、地元で 障害のある人のことを伝えるよいチャンスだからぜひ応募してみたい と思ったんです。それで自分の住まいも職場もある地域の曳馬協働セ ンターに行って大平さんとお会いしました。

一 改めて「学習成果活用事業」とは どんなものか教えてください。

大平智史 「学習成果活用事業」は、浜松市民の皆さんが主体になっ て講座や教室を企画運営する事業です。ご自身の知識や技術などを 伝えたり、地域の課題解決のために生かしたりすることができます。例 年4月から5月に実施希望者を公募して、採択されたものを浜松市の主 催事業として開催します。

当時、私はまだ曳馬協働センターに配属されたばかりの頃でした。自 分のなかで生涯学習の講座というと趣味の成果や技術を伝えるもの が多い印象がありました。髙橋さんからご相談をいただいて、こういっ た企画が実現できたら新しい形の講座ができたり、地域づくりのチャ ンスになると感じました。

髙橋 私も当初は同じような印象があったので、自分の企画は趣旨と 違って採択は無理なのかなと、正直なところ不安でした。でも、大平さ んにお話したら「相談しながらつくりましょう」と、背中を押してくれたん です。申請から講座をつくる過程と、本当に親身になってサポートいた だけたのがありがたかったです。



実際にはどんな講座になったのでしょうか。

髙橋 講座は3回シリーズで行いました。1回目は浜松キャラバン隊の 公演を動画で紹介したり、障害のある状態を疑似体験するワーク ショップを行いました。2回目は曳馬地区に住んだり働いている障害の ある当事者の家族に来てもらって地域で暮らすために知ってもらいた いことなどの話を聞きました。最終回が臨床心理士の方から支援の方 法について学ぶという内容でした。

どうして障害のある人が協働センターに来れていないのかと考えたと きに、そこで活動する人や職員が障害のある人のことを知らないから だろうと、まずは自分の暮らす地域のなかでそういった知り合いを増 やしていくことが必要だと思ってこういった内容にしました。

大平 実際に髙橋さんの他にも当事者の家族からお話を聞くことは、 自分にとっても考えるきっかけになりました。通勤途中の電車で出会う 障害のある人に対する自分の見方が変わりました。つながりがたくさ んあればあるほど、困った時の相談先にもなると感じています。曳馬協 働センターとしても、いろんな方が立ち寄りやすい環境づくりに積極的 に取り組んでいきたいと思いました。

髙橋 障害のある人に向けた特別な機会だけではなくて、いろんな人 がいる場所に普通に出かけられるのがいいなと思うんです。曳馬協働 センターは自分にとっては行きやすい場所で、それは大平さんがいて 声をかけてくれるからなんです。そういった関係性を大切にしてくれる 場所は障害のある人にとっても安心感があると思います。実は今度、家 族の念願だった古本屋と居場所を兼ねた店舗を市内で開きます。私自 身も誰もが気軽に寄れる居場所になるように力を入れていきたいと 思っています。

Profile 髙橋 久美子

浜松市浜松手をつなぐ育成会副 会長、啓発委員長。2009年に浜松 キャラバン隊を立ち上げ、知的障 害・発達障害のある人がどんな人 かを伝える公演活動を行ってい る。認定NPO法人遠州精神保健 福祉をすすめる市民の会副代表 理事。会計・労務のほか、ボラン ティア活動の企画運営・精神障害 のある人の居場所事業を担当。

Profile 大平 智史

浜松市曳馬協働センター・コミュ ニティ担当職員。2021年から曳馬 協働センターに配属となり、地域 住民に寄り添いながら、講座や地 域づくりのためのイベント等を企 画・運営している。「市民と同じ目 線に立つ職員」を目指し、住民と のコミュニケーションと信頼関係 づくりを第一に業務に取り組んで いる。

0 混ざるとうまれるあれやこれ… >

最後のセクションでは、多様な人が出会う場づくりの実践とそこで大切にされている考え方を紹介します。場をともにする人同士の 関係や役割はときに固定して行き詰まったり、動的に変わっていったりもします。他人のあるがままに出会って揺さぶられることで、初 めて自分の譲れないものに気づくこともあります。多様な人がともにいることでうまれるものごとについて、改めて考えてみましょう。



ちまた公民館

浜松市の市街地にある10坪ほどの空間で運営している私設公民館。無料で過ごすことができて、遊ぶ、休憩す る、お喋りする、勉強や創作など、何をしても・しなくてもよい場所。精神障害や発達障害のある方、近所の小学 生やお年寄り、仕事の帰り道の方、ホームレスの方など、日々さまざまな人が立ち寄ったり過ごしたりしています。

「バツじゃない | あり方を探って



思ってます。2023年からは「出張

ちまた公民館」と題して、浜松市

内外のいろいろな場所に出かけ

て居場所をつくる試みを始めま

した。特に近所にあるクリエート



Navigator(左から)

久保田 瑛、水越 雅人 杉田 可縫

まちづくりと福祉の連携企画 「浜松ちまた会議」を担う久保 田瑛さん、子どもの居場所に 関心のある杉田さん、精神障 害のある人の仕事や活動の 支援をする水越さんの3人が、 ちまた公民館をわいわい悩 みながら運営する。

ざが起きたり、他の人のふるまい す。じっくり話を聞く人もいれば、 ドライな対応をする人もいる。適 を怪訝な顔で見ている人がいた 切な関わり方は状況や相手との り、止めたほうがいいのかな…と モヤモヤする出来事が起きたり 関係によっても変わるんじゃない することもあります。そんなとき、 ルールを増やしたり禁止事項を つくったりすれば、安全な場にな るのかもしれない。でも、それだと 何も起きない場になってしまいま すよね。そうじゃなくて、相手の話

を聞いたり背景を知ったりすると

価値観や習慣の違いが見えてき

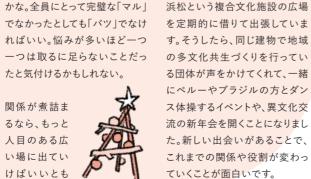
て、自分が普段いかに狭い枠の

なかでコミュニケーションしてきた

かということに気付かされます。

限られたスペースのなかでいざこ

関係が煮詰ま るなら、もっと 人目のある広



運営するスタッフもそれぞれで



みにみにアルス・ノヴァ

障害福祉施設アルス・ノヴァに通う重度知的障害のあるメンバーとスタッフが、昼休みの小学校の校庭に 定期的に出張して過ごす企画です。お膳立てした「健常者と障害者の交流」ではなく、お互いに関わって もいいし関わらなくてもいいのが特徴。小学生の日常風景のなかに、よくわからないけれど気になる存在 がなんとなくいて、自由な質問をすることもできるという体験をつくります。

わからないことをともに楽しむ時間

子どもにとって、教室で質問をする には「はい! |と挙手する勇気が要る けれど、ごはんを食べながらとか ボール遊びしながらだったら、疑問 に思ったことを訊ねてくるんですよ ね。休み時間の校庭って子どもはリ ラックスしている場面で、そこに出 会ったこともない障害のある人がい ると、気になる子は聞きにくる。例え ば「どこが悪いの?」「誰が障害者な の?」「子どもなの?大人なの?」とか。 学校教育では健常/障害や年齢に

それに対して、私は「私もわからない んだ」とか「どう思う?」み

みて考えたりすることが常だから。 そうすると「わかったこと」にはなら ず、子ども自身が考えてくれる。混 ざって起きるさまざまなことを楽しめ る場であるためには、わからないこ とを楽しめたらいいなと思います。 相手をわかってからとか専門知識が なければ関われないんじゃなくて。

ないから探ったり、やりとりの反応を

よって同質な集団に分けられるの で、意図的に混ぜる場をつくらないと 同じような人だけの社会が世界だと 思ってしまう。そういう点で休み時間 は混ぜるのにぴったりな時間です。 混ざるというと正確

ではなくて、すでに場のなかにはグ ラデーションのようにいろんな人が いると知ることだと思うんです。小学 生のなかにも普通の枠に苦しんでい る子はいて、多様なことや違うことが 楽しい場に安心感を抱いているよう に見えることがあります。

そういう経験をした子たちが、数年 後、街中で私たちを見かけて「アル ス・ノヴァの人たちですよね」と声を かけてくれたことがありました。それ は、楽しい記憶のなかに私たちの存 在があったからなんじゃないかな。



Navigator 夏目 はるな

障害福祉施設アルス・ ノヴァの学校事業担 当。子どもや若者が 「普通」に囚われず もっと色々な人に出 会わなければ!と焦っ ている。

11

SECTION 03 混ざるとうまれるあれやこれ…

& POINT /

- ☑ 自分の当たり前が揺さぶられる葛藤を楽しもう いろんな人のなかに自分がいると、からだと思考がほぐれていく
- ☑ 完璧さを求めない余白が、ともにいることをつくる 関係は時と場や人によって変わる。出会いも別れも再会もある
 - ☑わからないことを楽しめるゆるさと気軽さ

専門知識より大切なのは気になる気持ち、わからないことは出会いのきっかけ



居心地のよさってなんだろう?

あなたはどんな時に、どんな場所で、どんな人や物に、居心地のよさを感じているのでしょうか? 周りの人とも一緒に居心地のよさについて考えてみましょう。

- 1. あなたが「居心地のよさ」を感じた具体的な場面を書いてみよう。
- 2. あなたの周りの人に「居心地のよさ」について聞いて書いてみよう。
- 3. あなたとその人たちがともに居心地よくいられる場面に、タイトルをつけて描いてみよう。

場面のタイトル「

参考

12

居心地のよさや居場所については、ライター・原 菜月さんがちまた公民館の日々について綴った コラムシリーズもぜひご覧ください。



風を感じるのが 心地よいから ずっと動いて いたいな~ 同じくらいの密集感でも、 都会のスクランブル 交差点はいやで、 賑やかな居酒屋は 居心地がよいの、 なんでかなぁ?



認定NPO法人クリエイティブサポートレッツは、文部科学省「令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」、「令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」を受託して、主に重度知的障害のある人の生涯学習の機会をひろげる事業を行なってきました。キーコンセプトは「ともにいるだけで学びになる」。障害のある人を含む多様な人同士が出会い、ともにいることで、わたしたちのコミュニティにとって豊かな学びが生まれると考えています。

令和4年度 パンフレット

「ともにいるだけで学びになる ~福祉とアートの現場から~ |

クリエイティブサポートレッツは、文部科学省「令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として、2023年1月21日(土)に〈共に学び、生きる共生社会コンファレンス「ともにいるだけで学びになる~福祉とアートの現場から~」〉を開催しました。

事業内容やコンファレンス 内容をまとめたパンフレット をウェブサイトにて公開して います。



令和5年度 | アーカイブ動画

「ともにいるだけで学びになる ~これからの協働センターはどうあるべきか、その可能性を考える~ 」

クリエイティブサポートレッツは、文部科学省「令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」として、2024年2月5日(月)に〈共に学び、生きる共生社会コンファレンス「ともにいるだけで学びになる~これからの協働センターはどうあるべきか、その可能性を考える」〉を開催し、社会教育の関係者、福祉の関係者、関心のある市民が集い、これからの地域コミュニティの核としての役割を担う協働センターの可能性について議論しました。

コンファレンスのアーカイブ 動画をウェブサイトにて公開 しています。



[開催概要]

文部科学省「令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

「ともにいるだけで学びになる~これからの協働センターはどうあるべきか、その可能性を考える」

日時 | 2024年2月5日(月)13:00-17:30

会場 | クリエート浜松 2階ホール

主催|認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、文部科学省

後援 | 浜松市

同時開催 | 出張たけし文化センター連尺町+出張ちまた公民館(クリエート浜松 ふれあい広場にて)